

# 東映衛星放送株式会社

## 第7回番組審議委員会議事録

開催日時： 平成22年9月29日（水） 11時30分～13時

開催場所： コートヤード・マリOTT 銀座東武ホテル

委員の出席： 委員の総数 7名 出席委員数 6名

出席者：

（番組審議委員）

星野岳志（委員長）、加地隆雄、脇田巧彦、有山弘道、秋本鉄次、杉恭介

（放送事業者側出席者）

福原英行、古玉國彦、小林良之、金子建、辺見孝、山本健太郎

欠席者：

（番組審議委員）

小川善美

議題： 「東映チャンネル」の編成内容に関する審議

審議内容：

放送事業者側出席者より、東映衛星放送（株）の現況、最近の市場環境、「東映チャンネル」の編成内容に関する説明ののち審議に入った。

<番組審議委員の発言>

- 1.（平成22年10月より開始される予定の特集企画「ぞくぞく連続放送！！」に関して）とても良い企画だが、若い年代の視聴者は特集企画で取り上げられるような『網走番外地』などのことについて詳しく知らない。それならば、特集に関連して監督や俳優の方にナビゲーターになっていただき、放送の前後に説明を加えてはどうだろうか。
- 2.（平成22年10月放送予定の特集【名優たちの出発点！スクリーンデビュー作特集】に関して）とても良い企画だと思う。DVDなどの未パッケージ作品や、廃盤になって

しまった作品などを取り上げることで付加価値をつけたものになっている。現在でも活躍されている俳優をクローズアップさせることによって、視聴者のかたの興味を起こさせるきっかけになる。東映チャンネルでしか観ることができない作品を放送することで、長く契約していただいている視聴者の方に答えることができるのではないか。

3. 今の若い世代の方は過去の作品について関心を持たない傾向がある。40年以上前の作品について、観る・観ないでなく興味を持っていない。放送する側はより柔軟になる必要があるのではないか。
4. ビデオレンタル店で旧作をばらして展示するよりも、テーマを設けて一つの棚に集めたほうが貸出の実績が上がっている。放送でも同様に組み合わせを工夫できるのではないか。
5. 視聴者側の立場になって、「何曜日の何時に定番作品が放送される」といった、タイムテーブルがなくても特集が楽しめるようにできないだろうか。いわゆる視聴習慣がつくような編成が望まれる。

<事業者側の回答>

- ・(1. の「ぞくぞく連続放送!!」にナビゲーターを設けて解説番組を放送しては、という意見について) 検討したい。関係者によっては旧作について語ることを嫌がる方もいらっしゃるが、視聴者の方へのPRにもなるので、前向きに考えたい。
- ・(2. の【名優たちの出発点!スクリーンデビュー作特集】に関して) プリント費などコストはかなりかかるが、意義のある企画なので放送を決めた。
- ・(5. の視聴習慣のつくような編成に関して) 編成については定期的に見直しをしてよりよいものするよう心掛けているが、さらに検討をしたい。

以上